

<理念> 一連托生の想い。あなたの笑顔のために！

- ・ 住み慣れた地域でいつまでも健やかな生活が送れるよう中核病院・他科診療所との連携をはかり適切な医療・介護を提供する施設を目指します。
- ・ 安心・安全・安楽な環境で、親身の介護サービスを提供できるよう全職員が一丸となって取り組みます。
- ・ 気配り・思いやりのプロとして専門性を高め、日々向上する意識をもった職員育成を行いサービスの質の向上に努めてまいります。

<職員を紹介します>



戸崎洋子

昨年の6月からお世話になっています。行き届かない所も有ると思いますが日々精進です。精一杯頑張ります。



中島眞佐子
(清掃・洗濯)

昨年の6月からお世話になっております。利用者様が過ごしやすい様、掃除をがんばります。宜しくお願いします。



竹内ちや
(洗濯)

お世話になっております。ご迷惑をおかけしないよう新たな気持ちで勤めます。よろしくお願ひいたします。



勝村芳子
(清掃・洗濯)

掃除担当の勝村です。多くの皆様と毎日を目指して生活できる事感謝です。これからもよろしくお願ひします。

100歳祝賀会

百歳誕生日 おめでとうございます！！

入所者の中島花子様が百歳の誕生日を迎えられました。岐阜市より職員2名が来設し表彰されました。賞状授与後、記念品と花束が贈呈されました。



中島 花子 様

<ご利用者様の御家族へ> 衣替えのお願い

気温差の激しい季節になります。そこで、下記のような衣類の入替えをお願いします。

- ① 長袖カーディガンをご用意下さい。
- ② 薄手綿素材長袖衣類(下着も含む)をご用意下さい。
- ③ 冬物は、お持ち帰り下さい。



<関連施設案内>

三浦医院
三浦老人保健施設
〒501-0112
岐阜市鏡島精華3丁目17-5
TEL 058-251-9038



みうら在宅介護サポート(居宅介護支援事業所)
鏡島弘法前ケアセンター(デイサービス)
鏡島弘法前ケアセンター(グループホーム)

〒501-0124
岐阜市鏡島中2丁目
9番13号
TEL 058-251-9062



ほほえみ

No. 41

平成29年4月3日発行
三浦老健だより

<理事長御挨拶>



医療法人久誠会
理事長 三浦宜久

前回までのお話で、今から50年前、鏡島旧道沿いで開業し、順調に滑り出した三浦医院でしたが、鉄筋コンクリート3階建ての病院(現施設)開設後の運営はかなり苦しいものであったようです。病院としての基準を満たすため、医師の確保や看護師の確保、当時はまだヘルパーさんと呼ばれた介護職員の確保など人員の確保に苦勞させられるのは今も変わりはありませんが、予定した60床の病床は半分程度しか運営出来ず、その収入たるものは限られたもので、外来診療の利益を随分と食われてしまっていたようです。なぜなら身体的には自宅で過ごすのが困難となっているとはいえ、持病の安定した患者さんは検査や新たな加療を必要としないため、入院しても点数を算定する医療行為自体に限られ、良心的な診療では売り上げにならなかったのです。それでも、全国的には営利目的の社会的入院が医療費の多大な負担となっていると問題視され、社会的入院の削減、医療費の削減を掲げられ、老人病院の運営は益々厳しいものとなっていきました。

そんな矢先、1990年に当時の厚生省は高齢化社会に備える“高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略”いわゆるゴールドプランを打ち出し、社会的入院を解消すべく、病院を退院してから在宅に復帰するまでのリハビリを中心とした中間施設構想が具体化されることとなりました。それが老人保健施設だったのです。父は渡りに船とばかりに老人病院から老人保健施設への移行を計画いたしました。当時としては余裕のある病室であったことや移行施設には設備基準が緩和し許された部分もあり、早々と岐阜県で4番目に認可を受け開設することとなりました。

老人保健施設の運営は何もかもが手探りで、お手本のない中、当時のスタッフは如何に入所の皆さんに楽しい生活を送っていただけるかに重きをおき、行事は創意工夫の賜物でした。小学校の体育館や公民館を借りた運動会。橋の完成式典に駆けつけ利用者さんに渡り初めをさせてもらったり、スタッフと利用者さんと劇やハンドベルを共演したり、お花見、弘法様の縁日参拝などなど、元気な方も多かったのでスタッフが少なくても、なんとなくのんびり楽しく過ごせた時代でもありました。食事も院長自ら、毎週、魚市場で鮮魚を仕入れに行き、建物が新設でない分、食事だけはどこにも負けないという意気込みで刺身などの生ものもふんだんに提供していた様です。経営難は一気に解消し、病床も30床から60床稼働させることが出来き、改修にも着手できるようになりましたが、そんな良い時代は長くは続かず、平成8年に父は胃癌にて他界し、私が継承したころには、全国的に施設が充足してくると、国は報酬を減らす政策に変換し、再び経営は冬の時代に逆戻り、食の安全への配慮から自社運営の厨房を外部委託し質素な運営を余儀なくさせられました。

介護保険制度が2000年に制定されると、厳しい諸条件をクリアすることで報酬増を図る転機となりました。介護保険制度はサービス計画、説明、同意、契約、記録、報告と事務的な過程を要求し、運営には第一に安全に配慮し、感染対策・事故対策・接遇向上に適切な医療、積極的な理学・作業療法とあらゆるサービスの質の向上を求められました。介護スタッフも専門性を高め、皆が介護福祉士を取得し勉強をしなくてはならなくなり、未資格者も資格取得を目指すよう促されることとなりました。日々の業務に追われ肉体的にも精神的にも疲弊した中で家に戻れば試験勉強をしなくてはならないとは、ヘルパーさんと呼ばれた時代とは大きく変わったものです。近郊にも施設が乱立し、老人保健施設単体だけの運営はニーズに応えることに限界があり、地域の方々が住み慣れたところでいつまでも暮らせるようにとデイサービスやグループホームといった事業所(鏡島弘法前ケアセンター)を2004年開設し現在に至っております。

町並みは少しずつ姿を変え、住む人も働く人も入れ替わりはありますが、お陰様で三浦医院はこの地で50周年を迎えることとなりました。かつて盛況だった鏡島の商売屋さんには皆、愛称がありました。ほっこさん、ふっこさん、お客さんは親しみをこめて“さん”付けて呼ぶのが習わしでした。いつまでも三浦医院が“みうらさん”と親しみをもって呼んでいただけるよう、ここに集う人、働く人、皆が共に笑顔でいられる場所でありたいと願っております。御家族様と我々は一連托生であるとの思いで、人との関わりを大切に、今後も一歩一歩、着実に進んでいければと思っております。